

アントレプレナーシップ及びエージェンシー教育における
キャリア意識の変容
ーキャリア育成学科介護福祉コースの学生を対象としてー

杉 本 あゆみ

研究論文

アントレプレナーシップ及びエージェンシー教育における キャリア意識の変容

ーキャリア育成学科介護福祉コースの学生を対象としてー

杉本 あゆみ

はじめに

2015年より進められている OECD「Education2030 プロジェクト」における中心的な概念である「エージェンシー」は、今後の予測不可能な時代を生き抜くために身に付けるべき能力とされている。また、「エージェンシー」と一部近い部分もあるとされる概念として「アントレプレナーシップ」が挙げられ、「エージェンシー教育」とともに、「アントレプレナー教育」については、日本の教育機関での学習機会の乏しさが問題となりつつある。本研究では、高等教育機関で介護福祉について学ぶ学生が「アントレプレナーシップ」や「エージェンシー」を身に付けるために、キャリア教育関連授業内で「協働評価学修を取り入れた経験学修モデル」を実践し、その教育効果を考察する。

1. 三重創生ファンタジスタ科目

人口減少や少子高齢化が進展する地域社会では、過疎化や産業の衰退など様々な地域課題に直面しており、そうした地域課題を解決していくには、課題を俯瞰して思考できる文系・理系の専門知を持ち、デジタルを利活用して課題を分析し、多様な人々と協働してその解決策を創造できる人材が必要とされる。このような背景のもと、2015（平成27）年度に文部科学省「地（知）の拠点大学による地方創生推進事業」に三重大学が採択され、県内13高等教育機関や県内企業、三重県とともに、雇用の創出や若者の県内就職率の向上などを目的とした事業が実施された。具体的な取組内容としては、三重県の課題となっていた、「食と観光」、「次世代産業」、「医療・健康・福祉」の各分野において、リーダーとなりうる存在「三重創生ファンタジスタ」（状況を的確に把握して、複眼的な視点から柔軟で創造力に富んだ発想と行動のできる人材）を養成するための教育プログラムの開設である。三重創生ファンタジスタの養成は県内高等教育機関での教育分野における連携を深めることができ、単位互換も可能となっている。なお、上記の授業は、県の協力を得ながら、「三重を知る共同授業」として開講し、現在は三重創生ファンタジスタオリジナルの科目として位置付けられ、これまでに多くの学生が受講している状況にある。

本研究は、三重県の歴史・文化・産業等の特徴を理解し、地域が抱える課題に対して深く関心を持ち、主体的な活躍が期待できる、「三重創生ファンタジスタ」を養成するための教育プログラムとして指定されている、筆者が担当する必修科目「2025年度キャリア・デ

ザイン I」の実践授業研究である。当該授業では、まず、自身の住む地域について理解することから始め、地域が抱える課題や地域創生について意識させた上で、自身のキャリアについてデザインすることとした。また、キャリア選択の際、アントレプレナー教育の一環として起業が選択肢の一つになるよう、起業に関する基礎的な知識や、企業経営において重要となる企業財務に関する基礎知識および中小企業における資金調達の方法について教示する時間を設けた。さらに、本授業内では、自身のキャリアについて考えを深めるために、セルフワークだけでなくグループワークの時間も長時間設けることとし、受講学生同士の情報共有にも注力した。さらに、授業前後に学修到達度調査を実施し、当該科目の受講により学生に身に付いた可能性のある能力を具体的に明らかにすることとした。

2. アントレプレナーシップ

アントレプレナーシップ (Entrepreneurship) は、日本語では「起業家精神」と訳され、起業する人に特有の資質であると捉えられることが多くあるが、その本質は、新しいものを創り出したり、新しいことに挑戦する姿勢そのものであり、後述する「変化を起こすために」というエージェンシー概念に近似する部分が含まれる。このアントレプレナーシップは、これからの時代を生き抜く学生には高等教育機関で醸成されるべきものと考えられるが、日本では他国と比較してアントレプレナーシップの素養を持った人材が少ないことが経済産業省委託調査等の国際的な調査結果⁽¹⁾で指摘されており、その大きな要因として、教育機関での学習経験の乏しさが挙げられており、高等教育機関におけるアントレプレナー教育は急務であると考えられる。本研究では、この点を踏まえ、アントレプレナーシップを育成する教育プログラムのデザインおよび構築を目的とすることとした。

3. エージェンシー概念

2019 (令和元) 年 5 月に発表された OECD (2019)⁽²⁾ には、エージェンシー (Agency) は、これからの予測不能な時代を力強く生き抜くために必要な能力として、「変化を起こすために、自分で目標を設定し、振り返り、責任をもって行動する能力 (the capacity to set a goal, reflect and act responsibly to effect change)」と定義されている。

2020 年 3 月に文部科学省から公開された、『OECD Learning Compass 2030 仮訳』⁽³⁾ によれば、エージェンシーを身に付けるための学修方法として、見通し (Anticipation) → 行動 (Action) → 振り返り (Reflection) の繰り返しについて、「学習者が継続的に自らの思考を改善し、集団のウェルビーイングに向かって意図的に、また責任を持って行動するための反復的な学習プロセス」であるとして、「AAR サイクル」が提案されている。

本研究では、上記の OECD が推奨している「AAR サイクル」を参考に、授業開始前に学生自らが学修目標を定め、その目標を達成できるように学修計画を立て、授業内外で学修を実践し、実践した学修内容を振り返り、「協働で評価し合い」、新しい気づきを得て次

の経験に活かす、を1サイクルとした「協働評価学修を取り入れた経験学修サイクル」を複数回繰り返し、その効果を検証することとした。この「協働評価学修を取り入れた経験学修サイクル」の繰り返し、学生のエンジェンシー育成や、先述したアントレプレナーシップ育成につながるのではないかとという仮説を立て、これを実証するために、筆者が担当する三重創生ファンタジスタ養成科目「キャリア・デザインⅠ」授業内で、協働評価学修を取り入れた経験学修サイクルを試み、その効果を受講学生自身の自己評価や、事前事後に実施した記述式アンケート調査の結果を分析して検証することとした。

4. 社会人基礎力

2006年に経済産業省により提唱され、さらに2018年に人生100年時代や第四次産業革命などの社会状況を踏まえて再定義され、その後も現在に至るまでさまざまな企業研修や採用基準などに活用されている概念である、「社会人基礎力」に含まれる3つの能力（Ⅰ～Ⅲ）と12の能力要素（①～⑫）は以下である（表1）⁽⁴⁾。

表1 社会人基礎力

I前に踏み出す力 (アクション)	一歩前に踏み出し、失敗しても粘り強く取り組む力とされる。自分から動き、自分から他者に働きかける、自分で決めたことをやり抜くなど、主体的な行動がポイントとなる。
①主体性	物事に進んで取り組む力
②働きかけ力	他人に働きかけ巻き込む力
③実行力	目的を設定し確実に行動する力
Ⅱ考え抜く力 (シンキング)	疑問を持ち、考え抜く力であるとされる。理想の姿を描き、現状を認識し、乗り越えなければならない障害を克服する過程をこれからの実行計画に落とし込む力である。
④課題発見力	現状を分析し目的や課題を明らかにする力
⑤計画力	課題の解決に向けたプロセスを明らかにし準備する力
⑥創造力	新しい価値を生み出す力
Ⅲチームで働く力 (チームワーク)	多様な人々と、目標に向けて協力できる力とされる。同じ目的や目標に向かう協働チームにおけるメンバーと成り得る能力とも理解できる。
⑦発信力	自分の意見をわかりやすく伝える力
⑧傾聴力	相手の意見を丁寧に聴く力
⑨柔軟性	意見の違いや立場の違いを理解する力
⑩状況把握力	自分と周囲の人々や物事との関係性を理解する力
⑪規律性	社会のルールや人との約束を守る力
⑫ストレスコントロール力	ストレスの発生源に対応する力

本稿で注目しているアントレプレナーシップやエージェンシーは、社会人基礎力と関連性の高い能力と考え、本調査では、アントレプレナーシップおよびエージェンシーの測定尺度として社会人基礎力にある12の能力要素を採用することとした。測定方法は、事前、事後で受講学生に自身の社会人基礎力がどの程度身に付いているのかをポイント形式で自己評価（12の能力要素について各5ポイント満点で評価）させるとともに、その評価の根拠となる具体的な行動内容を記述してもらい（表2）、その結果については能力ごとのポイント平均値の結果に検定処理を施すこととした。

表2 社会人基礎力自己評価シート

・主体性（物事に進んで取り組む力）	5 … 4 … 3 … 2 … 1 … 0
評価の根拠となる具体的な行動内容	
・働きかけ力（他人に働きかけ巻き込む力）	5 … 4 … 3 … 2 … 1 … 0
評価の根拠となる具体的な行動内容	
・実行力（目的を設定し確実に行動する力）	5 … 4 … 3 … 2 … 1 … 0
評価の根拠となる具体的な行動内容	
・課題発見力（現状を分析し、目的や課題を明らかにする力）	5 … 4 … 3 … 2 … 1 … 0
評価の根拠となる具体的な行動内容	
・計画力（課題解決に向けたプロセスを明らかにし準備する力）	5 … 4 … 3 … 2 … 1 … 0
評価の根拠となる具体的な行動内容	
・創造力（新しい価値を生み出す力）	5 … 4 … 3 … 2 … 1 … 0
評価の根拠となる具体的な行動内容	
・発信力（自分の意見をわかりやすく伝える力）	5 … 4 … 3 … 2 … 1 … 0
評価の根拠となる具体的な行動内容	
・傾聴力（相手の意見を丁寧に聴く力）	5 … 4 … 3 … 2 … 1 … 0
評価の根拠となる具体的な行動内容	
・柔軟性（意見の違いや立場の違いを理解する力）	5 … 4 … 3 … 2 … 1 … 0
評価の根拠となる具体的な行動内容	
・状況把握力（自分と周囲の人々との関係性を理解する力）	5 … 4 … 3 … 2 … 1 … 0
評価の根拠となる具体的な行動内容	
・規律性（社会のルールや人との約束を守る力）	5 … 4 … 3 … 2 … 1 … 0
評価の根拠となる具体的な行動内容	
・ストレスコントロール力（ストレス発生源に対応する力）	5 … 4 … 3 … 2 … 1 … 0
評価の根拠となる具体的な行動内容	

5. 調査内容

本研究で実施した調査については、以下のとおりである。

5. 1 調査概略

2025年度前期必修科目「キャリア・デザインⅠ」において、協働評価学修、経験学修サイクルを実践し、その効果については、社会人基礎力自己評価ポイントと事後アンケート記述内容を用いて、客観的尺度と主観的尺度の両側面から測定、分析する。

5. 2 調査対象

2025年度前期必修科目「キャリア・デザインⅠ」受講学生（初年次学生）22名

5. 3 調査時期

2025年4月から7月

5. 4 授業内容

2025年度前期必修科目「キャリア・デザインⅠ」の全15回の授業内容は以下である（表3）。

表3 2025年度前期必修科目「キャリア・デザインⅠ」15回授業内容

回数	学修内容	課題
1	事前社会人基礎力自己評価 キャリア・デザインの必要性について考える	【経験学修サイクルの実践】 各授業内では、次週に向けて身に付けたい力について目標を立て、普段の生活における自身の学修を振り返り、どのような体験から、どのような学びを得たかを記述（可視化）する時間を設ける（学修振り返りシートに記入）
2	地域課題を理解する お金に関する知識を身に付ける ファイナンシャルDVD視聴	
3	世の中の職業について理解を深める	
4	起業について理解を深める、ビジネスプランを考える	
5	自身の可能性、社会で求められている人材について考える	
6	企業分析、ビジネスモデル分析①	
7	企業分析、ビジネスモデル分析②	
8	自己分析の必要性について理解する	
9	自己分析①過去を振り返る	
10	自己分析②自己アピール文を250字程度で書く①	
11	自己分析③自己アピール文を250字程度で書く②	
12	自己分析④自分POPの作成	
13	先輩の経験から学ぶ 介護福祉系希望者の自己PR文の書き方	
14	人生設計 【キャリアプランニング】 5年後、10年後、20年後の自分をイメージする 事後社会人基礎力自己評価	
15	学修の振り返り 自身の学びを振り返って文章化する	

5. 5 協働評価学修を含んだ経験学修サイクルの実践方法

以下の表4にある「学修振り返りシート」を使用し、授業開始前に学生自身が科目学修目標を定める時間を設け、同時に、その目標を達成できるように学修計画を立てるよう促す。授業内外で自身が立てた学修計画を実践し、次回授業内で実践した学修内容を振り返る時間と、クラスメイトと協働で情報共有し評価し合う時間を設ける。そこで得た新しい気づきを文章化（可視化）し、何らかの教訓を得て次の経験に活かす、を1サイクルとした「経験学修サイクル」を複数回繰り返すこととした。

表4 学修振り返りシート

	目標(達成度)	振り返り	協働評価による 気づき・教訓	1週間の振り返り
1				読書()冊 ジャンル() 教員会話()時間 アルバイト時間()時間 地域会話()時間
2				読書()冊 ジャンル() 教員会話()時間 アルバイト時間()時間 地域会話()時間
3				読書()冊 ジャンル() 教員会話()時間 アルバイト時間()時間 地域会話()時間
4				読書()冊 ジャンル() 教員会話()時間 アルバイト時間()時間 地域会話()時間
5				読書()冊 ジャンル() 教員会話()時間 アルバイト時間()時間 地域会話()時間
6				読書()冊 ジャンル() 教員会話()時間 アルバイト時間()時間 地域会話()時間
7				読書()冊 ジャンル() 教員会話()時間 アルバイト時間()時間 地域会話()時間
8				読書()冊 ジャンル() 教員会話()時間 アルバイト時間()時間 地域会話()時間
9				読書()冊 ジャンル() 教員会話()時間 アルバイト時間()時間 地域会話()時間
10				読書()冊 ジャンル() 教員会話()時間 アルバイト時間()時間 地域会話()時間
11				読書()冊 ジャンル() 教員会話()時間 アルバイト時間()時間 地域会話()時間
12				読書()冊 ジャンル() 教員会話()時間 アルバイト時間()時間 地域会話()時間
13				読書()冊 ジャンル() 教員会話()時間 アルバイト時間()時間 地域会話()時間
14				読書()冊 ジャンル() 教員会話()時間 アルバイト時間()時間 地域会話()時間
15				読書()冊 ジャンル() 教員会話()時間 アルバイト時間()時間 地域会話()時間
授業を終えて自身が成長したところについて具体的に述べてください。				

5. 6 事前アンケート内容

初回授業で実施した事前記述式アンケート内容は以下である（表5）。

表5 事前アンケート内容

<ol style="list-style-type: none">1. キャリア・デザインの授業では、どのような知識や力を身に付けたいと考えていますか。2. 起業（自分で会社をおこすこと）に興味がありますか、当てはまる番号に○を付けてください。 ①とても興味がある ②少し興味がある ③あるとないとも言えない ④ほとんど興味が無い ⑤全く興味が無い3. 起業（自分で会社をおこすこと）について、現時点でのあなたの考えを聞かせてください。 ①将来的に自身が中心となって起業する可能性があると思う（積極的に考えている） ②将来的に自身で起業する可能性があるかもしれないと思う（起業の可能性はゼロでは無い） ③将来的に誰かと協働で起業する可能性があると思う（誰かに誘われたら起業するかもしれない） ④自身が起業する可能性は全く無いと思う ⑤今はわからない4. 起業について具体的に学びたいことがありましたら記入してください。

5. 7 事後アンケート内容

最終授業で実施した事後記述式アンケート内容は以下である（表6）。

表6 事後アンケート内容

<ol style="list-style-type: none">1. この科目の授業を通じて、どのような知識、技能が身につきましたか。2. 授業で身に付けた知識、技能を、今後、どこでどのように活用しようと考えていますか。3. 授業を通じて自主的に学ぶ力が身についたと考えますか。理由とともに述べてください。4. 起業（自分で会社をおこすこと）に興味がありますか、当てはまる番号に○を付けてください。 ①とても興味がある ②少し興味がある ③あるとないとも言えない ④ほとんど興味が無い ⑤全く興味が無い5. 起業（自分で会社をおこすこと）について、現時点でのあなたの考えを聞かせてください。 ①将来的に自身が中心となって起業する可能性があると思う（積極的に考えている） ②将来的に自身で起業する可能性があるかもしれないと思う（起業の可能性はゼロでは無い） ③将来的に誰かと協働で起業する可能性があると思う（誰かに誘われたら起業するかもしれない） ④自身が起業する可能性は全く無いと思う ⑤今はわからない

6. 調査結果

事前アンケートの結果は表7、事後アンケートの結果は表8、社会人基礎力自己評価の能力ごとのポイント平均値の結果、能力ごとのポイント平均値に検定処理を施した結果を表9に示す。なお、紙幅の都合により、事前事後アンケートや、社会人基礎力自己評価にお

ける具体的な学生の記述内容は主なものを掲載するに留めた。

表 7 事前アンケート結果

n = 22

<p>1. キャリア・デザインの授業では、どのような知識や力を身に付けたいと考えていますか。 ・コミュニケーション力 ・洞察力 ・キャリア ・デザインの基礎 ・社会経済に関する知識 ・主体性</p> <p>2. 起業（自分で会社をおこすこと）に興味がありますか、当てはまる番号に○を付けてください。 ①とても興味がある 0 名（-） ②少し興味がある 1 名（4.55%） ③あるともないとも言えない 13 名（59.09%） ④ほとんど興味が無い 5 名（22.73%） ⑤全く興味が無い 3 名（13.63%）</p> <p>3. 起業（自分で会社をおこすこと）について、現時点でのあなたの考えを聞かせてください。 ①将来的に自身が中心となって起業する可能性があると思う（積極的に考えている）0 名（-） ②将来的に自身で起業する可能性があるかもしれないと思う（起業の可能性はゼロでは無い）2 名（9.09%） ③将来的に誰かと協働で起業する可能性があると思う（誰かに誘われたら起業するかもしれない）3 名（13.63%） ④自身が起業する可能性は全く無いと思う 7 名（31.82%） ⑤今はわからない 10 名（45.45%）</p> <p>4. 起業について具体的に学びたいことがありましたら記入してください。 ・企業の仕方を教えて欲しい ・実際に起業して成功した事例を聞きたい</p>

表 8 事後アンケート結果

n = 22

<p>1. この科目の授業を通じて、どのような知識、技能が身につきましたか。 ・コミュニケーション力 ・自主的に学ぶ力 ・傾聴力 ・経済関連知識 ・金融関連知識 ・社会情勢関連知識</p> <p>2. 授業で身に付けた知識、技能を、今後、どこでどのように活用しようと考えていますか。 ・施設実習時 ・就職活動時 ・就職時 ・アルバイト時</p> <p>3. 授業を通じて自主的に学ぶ力が身についたと考えますか。理由とともに述べてください。 ・授業で身に付けた知識や技能を普段の生活で活用できるようになったので自主性は身についたと思う</p> <p>4. 起業（自分で会社をおこすこと）に興味がありますか、当てはまる番号に○を付けてください。 ①とても興味がある 0 名（-） ②少し興味がある 3 名（13.63%） ③あるともないとも言えない 11 名（50.00%） ④ほとんど興味が無い 3 名（13.63%） ⑤全く興味が無い 5 名（22.73%）</p> <p>5. 起業（自分で会社をおこすこと）について、現時点でのあなたの考えを聞かせてください。 ①将来的に自身が中心となって起業する可能性があると思う（積極的に考えている）0 名（-） ②将来的に自身で起業する可能性があるかもしれないと思う（起業の可能性はゼロでは無い）3 名（13.63%） ③将来的に誰かと協働で起業する可能性があると思う（誰かに誘われたら起業するかもしれない）3 名（13.63%） ④自身が起業する可能性は全く無いと思う 9 名（40.91%） ⑤今はわからない 7 名（31.82%）</p>

表9 社会人基礎力自己評価結果

n = 22

3つの能力/12の能力要素	事前平均値 (標準偏差)	事後平均値 (標準偏差)	t 値
前に踏み出す力 (アクション)			
・主体性	2.82 (1.40)	3.41 (1.07)	-2.63***
【具体的な行動】・グループワークで自ら司会をしたり意見を発することが多くなった。			
・働きかけ力	2.59 (1.15)	3.23 (1.13)	-2.73***
【具体的な行動】・留学生に日本語を教えるのに友人に働きかけて協力してもらった。			
・実行力	2.86 (1.06)	3.45 (0.72)	-2.63***
【具体的な行動】・計画していたボランティア活動に自分の意志で積極的に参加した。			
考え抜く力 (シンキング)			
・課題発見力	2.05 (1.11)	3.14 (0.87)	-4.45***
【具体的な行動】・普段の生活の中で課題を見つけ、解決できるよう努力している。			
・計画力	2.23 (1.17)	3.05 (1.11)	-3.81***
【具体的な行動】・以前は計画なしに勉強していたが、現在は前もって学習計画を立ててから行動できるようになった。			
・創造力	2.59 (1.37)	3.18 (1.15)	-2.75***
【具体的な行動】・グループワークなどで今までにない新しいオリジナリティのある意見を考えて発言できるようになった。			
チームワークで働く力 (チームワーク)			
・発信力	2.00 (1.31)	2.95 (1.02)	-4.28***
【具体的な行動】・ゼミ発表で率先して情報を発信し、周りの人に分かり易いと褒められた。			
・傾聴力	3.27 (1.29)	3.91 (0.90)	-2.73***
【具体的な行動】・他人の相談事に耳を傾け、解決に導くことがあった。			
・柔軟性	2.77 (1.17)	3.45 (0.94)	-2.24**
【具体的な行動】・前に比べて、自分と意見が異なる友人の意見を受け入れられるようになった。			
・状況把握力	2.95 (1.30)	3.77 (0.79)	-3.05***
【具体的な行動】・以前と比べて周りの状況を把握して行動できるようになり、その力を介護実習で活かすことができた。			
・規律性	3.45 (1.23)	3.91 (0.79)	-1.48*
【具体的な行動】・社会における一般常識とされるルールを守るように気をつけるようになった。			
・ストレスコントロール力	2.59 (1.70)	2.95 (1.55)	-1.36*
【具体的な行動】・自身のストレス発散方法を把握し、感情のコントロールができるようになった。			
*** $p < 0.01$, ** $p < 0.05$, * $p < 0.1$			

7. 考察

授業開始直後と授業終了時に、表2にある、「社会人基礎力自己評価シート」を使用し、受講学生自身の社会人基礎力について自己評価を実施し、結果の平均点の差が統計的に有意か確かめるために、有意水準1%で対応のある t 検定を実施したところ、「前に踏み出す力（アクション）」に含まれる3つの能力、「考え抜く力（シンキング）」に含まれる、3つの能力、「チームワークで働く力（チームワーク）」に含まれる、「発信力」「傾聴力」「状況把握力」において $p<0.01$ という結果で、その差は統計的に有意であった。それ以外の全ての項目で事前平均値よりも事後平均値の方が高く、これにより、当該科目の受講は社会人基礎力の自己評価を高める可能性が認められ、特に、「エージェンシー」や「アントレプレナーシップ」に関連性が高いと考えられる、「前に踏み出す力（アクション）」に対する自己評価を高める可能性が統計的に示唆された。

また、受講学生の起業意識について事前事後アンケート結果より、「起業への興味の芽生え」、「将来的に起業するかもしれない可能性」が、共に微増したことが確認された。

さらに、「授業を通じて自主的に学ぶ力が身に付いたと考えますか。」という質問に、受講学生ほぼ全員が「授業を受けて自主的に学ぶ力が身に付いたと思う」等の内容を記述していたことから、当該科目受講により学生は「エージェンシー」や「アントレプレナーシップ」を身に付けられた可能性が示唆された。

8. おわりに

以上、初年次学生を対象として筆者が担当した、2025（令和7）年度前期必修科目「キャリア・デザインⅠ」において、協働評価学修を含んだ経験学修サイクルを実践し、事前・事後自己評価、および、事前・事後記述式アンケート調査により受講学生にエージェンシーおよびアントレプレナーシップが身に付くか検証したところ、受講学生の自己評価の根拠となる行動内容を記述する行為が、より深い内省に繋がる傾向が認められ、協働評価学修を含んだ経験学修サイクル実践の可能性が示唆された。今後もこのような調査を継続的に実施し、より多くの事例を集め、分析し、結果を一般化させ、高等教育機関におけるキャリア教育開発に貢献することができればと考えている。

引用・参考文献

- (1) みずほリサーチテクノロジーズ株式会社「起業家精神に関する調査」2024年3月 (https://www.meti.go.jp/meti_lib/report/2023FY/000230.pdf). 2025年4月9日閲覧
- (2) OECD Future of Education and Skills 2030 Concept Note c OECD 2019 (https://www.oecd.org/education/2030-project/teaching-and-learning/learning/student-agency/Student_Agency_for_2030_concept_note.pdf). 2025年4月9日閲覧
- (3) OECD Future of Education and Skills 2030

(<https://www.oecd.org/en/about/projects/future-of-education-and-skills-2030.html#strand1>). 2025年4月9日閲覧

(4) METI/ 経済産業省「社会人基礎力」

(<https://www.meti.go.jp/policy/kisoryoku/>). 2025年4月9日閲覧

